統合失調症患者の再入院防止に向けた文献検討

キーワード：統合失調症・再入院・内服中断・ストレス

奈良県立医科大学付属病院　精神医療センター
○稲田健志郎、内海詩織、鈴木佑典、西口亜希、金子匡伸

Ⅰ　はじめに

我が国においての精神科における入院患者の約8割が統合失調症患者である。平成16 年に厚生労働省がまとめた「精神保健医療福祉改革ビジョン」では、救急急性期医療の重視が掲げられており、当院の精神医療センターにおいても急性期治療が平成18年より開始されている。救急急性期医療に伴い3カ月以内での退院を目指し治療が行われているが、入院期間短縮に伴い急性期症状が治まると退院となることで、自宅へ帰った後地域生活を送る中で症状を悪化させ再入院を繰り返すといった回転ドア現象を引き起こしている。

精神科に勤めて経験年数が経つにつれて、当センターにおいても再入院を繰り返す統合失調症患者が多く、再入院の原因に関しても理由は様々であると感じた。当科では心理教育、退院前訪問、服薬自己管理のケアが行われている。しかしそのケアを実施した患者も同様の理由で再入院してきており、当院でのケアの有効性に疑問を感じ、研究を行うこととした。

Ⅱ　目的

統合失調症患者の再入院の原因と効果的なアプローチ方法を明らかにし、今後の看護に生かす事を目的に今回文献検討を行う。

Ⅲ　方法

①研究デザイン：文献検討

②研究対象：2005－2010 年の期間に発表された原著論文

③データの収集方法：医学中央雑誌にて、キーワード「統合失調症」「再入院」「看護」で原著論文を検索した。

④データの分析方法：抽出した文献を年代別に分類し、文献件数の変化を見ていく。また、行われている介入方法を分類することで、再入院防止において最も多く行われているケアは何なのか、原因も含めてデータ収集を行い、その中で文献間における傾向をみていく。

⑤倫理的配慮：当研究における文献について著作権を侵害しないように配慮した。長文の引用をさけ、孫引きとならないように配慮した。

Ⅳ　結果

1.検索結果

医学中央雑誌にて、キーワード「統合失調症」「再入院」「看護」で原著論文を検索した結果、49 件の文献が検索された。年別に分類すると表 1 となった。

表 1　年別文献件数

年	‘05	‘06	‘07	‘08	‘09	‘10	計
件数	5	9	7	13	12	3	49

2.再入院の原因

再入院の原因は 20 件の文献に記載されており、その原因を抽出すると 27 個ありカテゴリー化すると表 2 となった。

表 2　再入院の原因

カテゴリー	サブカテゴリー	個
服薬中断	内服中断	10
	家人による内服調整	1
ストレス	ストレス	6
	不眠	2
	隣人トラブル	1
身体症状の悪化	低Na血症	1
	糖尿病の悪化	1
陽性症状の悪化	陽性症状の悪化	5

3.再入院を防止するための介入方法

介入方法は 19 件の文献に記載されており、内容を抽出すると 21 個あり、内容の類似性によりカテゴリー化すると表 3 となった。

表 3　介入方法

カテゴリー	サブカテゴリー	個
心理教育	心理教育	3
	服薬指導	2
	ストレスコーピング	1
家族教育	疾病教育	3
	服薬指導	1
自己管理プログラム	内服自己管理	4
	認知行動療法	2
	運動療法	1
退院支援	退院指導	2
	地域スタッフ参加カンファレンス	2

心理教育のうち 1 件を除き効果が見られており、ストレスコーピングでは効果の明記がなかった。それ以外の研究では介入前後での患者・家族の良好な行動変容が見られたと報告されていた。

V　考察

1. 検索結果

文献件数の増加が見られ、再入院防止に関する意識の高まりと考えられた。2010 年の文献に関しては収集時期が早く検索結果が少ない結果となったと考える。

2. 再入院の原因

服薬中断とストレスが再入院の原因であると述べている文献が多かった。これは、鈴木[1]らの報告においても統合失調症では<対人関係><服薬管理不足><生活管理不足>が多数となったと述べられており、同様の結果が得られたと考えられる。

3. 再入院を防止するための介入方法

入院の原因としては服薬中断およびストレスによるものが全体の 74%を占めており、患者本人を対象とした心理教育と自己管理プログラムの計 13 件中 9 件が服薬に関連したものであった。また、ストレスコーピングについては効果に関して明記されていない。これは、服薬中断により再入院となっている患者が多いことに関連していると考えられる。そのことから、治療として服薬に対する医療者の意識が強く表れていると考えられる結果となった。

田井[2]らは「地域生活維持に向けて支援体制を整えるケアに関して、服薬中断群では開始時期が安定期からと遅く、ケアも限定されている傾向がある」と述べている。このことから、介入方法に関し服薬に重点的になることなく、入院当初から地域に戻るための介入やセルフケア能力の向上等の援助も併せて行うことで高い効果が得られると考えられる。また、自己管理プログラムが全体の 33%であり、セルフケア能力の向上のためにも患者参加型のプログラムを充実させて行くことが必要であると考える。

統合失調症患者は自己管理能力が低く家族や地域サポートが必要であり、吉野[3]は、「対象者だけに焦点を当てるのではなく、家族などの対象者にとっての重要他者に対するプログラムも同時に実施し、包括的な関わりを実施する必要性が認められた」と述べている。本人と家族に対して同時に介入できればお互いの疾患に対する理解力のさらなる向上に繋がると考える。しかし、中村[4]は「統合失調症患者を支える多くの家族が望むと思われる対処技能の向上については、短期入院での介入に時間的限界がある」と述べており、急性

期病棟での介入だけではなく退院後も継続して援助が受けられるよう退院支援を行う必要があると考えられる。

今回の研究では、介入によって良好な効果が得られたと述べる文献が 90%であったが、長期的な追跡調査は行われていない。今後介入方法が有効であり再入院の防止に繋げられているかどうかを長期的に調査する必要があると考えられる。

Ⅵ 結論

①服薬中断及びストレスが再入院の主な原因である。

②患者本人に対しては服薬中心の介入が行われている。

③入院当初から地域に戻るための介入やセルフケア能力の向上等の援助も合わせて行う必要がある。

④退院後も継続して援助が受けられるよう退院支援する必要がある。

Ⅶおわりに

今回は限られた年数の文献からのデータの抽出であり、実際の結果とは異なる可能性が考えられる。よって、今後は当院において再入院の原因に対するデータ収集及び介入方法の検討の必要性が示唆された。

引用文献

1)鈴木佐都子ら：急性期病棟で入退院を繰り返す要因についての分析,日本精神科看護学雑誌 48 巻 1,P200-201,2005

2)田井雅子ら：再入院した統合失調症患者の症状マネジメント習得と支援体制確立に向けたケア,日本精神保健看護学会誌 19 巻 1 号,P63-73,2010

3)吉野賀寿美：患者の回復過程を支える社会復帰援助プログラムの有効性と無効性の検討,北海道医療大学看護福祉部学会誌,4 巻 1 号,P43-57,2008

4)中村賀与：入退院をくり返している患者・家族に対する教育的アプローチ　家族の感情表出をふまえた心理教育を試みて，日本精神科看護学雑誌 51 巻 2 号,P481-485,2008

参考文献

1)田中美智子ら：精神科入院患者の退院支援退院調整のプロセスと看護師の役割,鳥取臨床科学研究会誌 2 巻 1 号,P1-7,2010

2)宇佐美しおりら:精神障害者への Assertive Community Treatment(ACT)の評価に対する研究　ケース・マネジメントにおける精神看護専門看護師の役割,熊本大学医学部保健学科紀要 6 号,P85-98,2010

3)望月志乃ぶら：再発・再入院を繰り返す統合失調症患者の家族教育　パンフレットを使用し否定的感情を減じる試みを行って，日本精神科看護学雑誌 52 巻 1 号,P330-331,2009

4)相川千寿子：効果的な対処方法を促すための援助　幻聴のある患者への退院支援を通して，日本精神科看護学雑誌 52 巻 1 号,P262-263,2009

5)松岡洋：入退院を繰り返す患者を地域で支えるためには,日本精神科看護学雑誌 52 巻 1 号,P138-139,2009

6)白岩和子：服薬に関する小グループＳＳＴの８年間の経過，日本精神科看護学雑誌 52 巻 2 号,P470-473,2009

7)瀬戸山圭ら：衝動性が強く再燃を繰り返す統合失調症患者の退院への取り組み　服薬指導をとおして，日本精神科看護学雑誌 52 巻 2 号,P455-459,2009

8)高田絵理子：統合失調症患者の健康教育プログラムに関する研究　デイケア施設利用者をとおしての一考察，日本精神科看護学雑誌 52 巻 2 号,P89-93,2009

9)岡井彰男ら：イラストを導入した精神科領域における服薬指導の評価(第 2 報)　精神科チーム医療における薬剤師の役割,病院・

地域精神医学 52巻2号,P146-148,P150-151,2009
10)森清ら:当院における統合失調症急性期患者を対象としたクリニカルパスの実践,市立札幌病院医誌69巻1号,P49-55,2009
11)小谷直江ら:精神科における服薬中断の諸要因を明らかにする 患者インタビューから,鳥取臨床科学研究会誌 1巻2号,P273-277,2009
12)浅井初ら:統合失調症と診断されている発病後間もない当事者の病気のつきあい方,高知女子大学看護学会誌 34巻1号,P29-35,2009
13)畑山悦子ら:メンタルな問題により修学困難となった学生に対するデイケアの有効性 ,CAMPUS HEALTH46巻2号,P112-116,2009
14)宇佐美しおりら:症状が不安定な精神障害者の自立支援における退院支援ケア・パッケージ作成とパッケージを含む集中型包括型ケア・マネジメントモデル(Community Based Care Management:CBCM)の開発,インターナショナルナーシングレビュー32巻1号,P88-95,2009
15)山中玲子:退院を強く拒んだ患者に対する意欲支援 長期入院患者の不安明確にした援助,日本精神科看護学雑誌 51巻3号,P352-356,2008
16)成田隆雄:服薬アドヒアランスを高める自己管理を目指して 服薬中断で再入院をくり返す患者に服薬自己管理を実施した事例を通して,日本精神科看護学雑誌 51巻3号,P333-337,2008
17)定友由美:統合失調症患者の退院支援について オレムのセルフケア理論を用いて,日本精神科看護学雑誌 51巻3号,P257-261,2008
18)北口伸江:退院前訪問指導における現状と課題 再入院患者に対するグループインタビューを通して,日本精神科看護学雑誌 51巻3号,P189-193,2008
19)小野英理子:精神科訪問看護の効果と有効性の検討 住み慣れた地域での生活を支えた事例より,日本精神科看護学雑誌 51巻3号,P179-183,2008
20)大橋佑美ら:精神疾患患者の入院期間の長期化の要因に関する研究 入院生活満足度および退院準備度と入院日数との関連性,日本精神科看護学雑誌 51巻3号,P145-149,2008
21)富林訓之ら:病棟と外来の一元化による退院指導の効果 病棟での指導を外来で評価・修正し継続看護が行えた事例より,日本精神科看護学雑誌 51巻3号,P62-65,2008
22)乗松幸子:統合失調症患者が服薬中断した理由 拒薬の原因分析,日本精神科看護学雑誌 51巻2号,P158-162,2008
23)拓殖雅俊:アドヒアランスを考慮した再発防止の取り組み 拒薬のセルフケアの向上をめざして,日本精神科看護学雑誌 51巻2号,P76-80,2008
24)小泉奈津子ら:精神障害のある人に対する地域での自立生活を可能にするケースマネジメントと多職種チームによるアプローチの検討,精神障害とリハビリテーション 12巻1号,P89-94,2008
25)服部朝代:服薬中断により入退院を繰り返す患者の看護 患者の認識を理解するかかわりからから学んだこと,日本精神科看護学雑誌 50巻2号,P428-432,2007
26)松下倫加:契約療法を用いた服薬自己管理 服薬の中断から再入院を繰り返ししている患者の事例を通して,日本精神科看護学雑誌 50巻2号,P423-427, 2007
27)飯嶋純一:急性期病棟における退院リハビリテーションプログラム(RP)を試みてRehabを指標にした心理教育の評価,日本精神科看護学雑誌 50巻2号,P409-413,2007
28)明神一浩:幻聴に対する自己対処能力の獲得に向けた取り組み 「病状自己管理」へ

のかかわり，日本精神科看護学雑誌 50 巻 2 号,P374-378,2007
29)小嶋千春:身体合併症治療を拒否し続けた統合失調患者へのかかわり　インフォームド・コンセントと家族の協力、医療連携が効果的に行われ手術が受け入れられた事例より，日本精神科看護学雑誌 50 巻 2 号,P329-333,2007
30)横嶋清美:急性期病棟に再入院し症状悪化した患者とのかかわり　行動制限緩和をはかる過程で受けた刺激による反応と睡眠に焦点をあてて，日本精神科看護学雑誌 50 巻 2 号,P236-240,2007
31)瀬戸屋希ら:精科科訪問看護で提供されるケアの内容　精神科訪問看護師へのインタビュー調査から，日本看護科学会誌 28 巻 1 号,P41-51,2008
32)宮本貴裕:調査研究　地域生活支援　入院医療中心から地域医療中心に向けて　訪問看護のデータを分析して見えたこと,正光会医療研究会誌,4 巻 1 号,P40－46,2007
33)花光清司:高齢統合失調症患者が単身生活をする為の退院支援　看護師がケア会議に積極的に参画する必要性,日本精神科看護学雑誌 49 巻 2 号,P389-393,　2006
34)宮洋子ら:服薬コンプライアンスを高めるための試み　服薬自己管理をとおして，日本精神科看護学雑誌 49 巻 2 号,P260-263,2006
35)神原ひとみら:社会復帰を目指した家族教室の効果　急性期病棟の家族理解を求めて，日本精神科看護学雑誌 49 巻 2 号,P67-71,2006
36)春山和彦ら:長期入院患者の居場所づくりを考える　生活空間の拡大が困難なケースから学んだこと，日本精神科看護学雑誌 49 巻 1 号,P280-281,2006
37)佐竹道子ら:精神科訪問看護の果たす役割長期入院から地域生活が可能になった一症例を振り返って，日本精神科看護学雑誌 49 巻 1 号,P156-157,　2006
38)齊藤澄子ら：患者の「退院したい」という意見を支えた関わり　生活教室の効果一事例を通して,日本看護学会論文集：精神看護 37 号,P93－95,2006
39)三瓶舞紀子ら:否認がある母親への患者参加型退院指導の有効性　家族生活力量モデルのアセスメントスケールを用いて，日本看護学会論文集：精神看護 37 号,P81－83,2006
40)大竹眞裕美ら:3 カ月以内で退院した統合失調症患者に行われたケアと退院後の生活の実際,日本精神保健看護学会誌 15 巻 1 号,P86-95,2006
41)酒井伸隆ら:急性期治療病棟における心理教育の効果，日本精神科看護学雑誌 48 巻 2 号,P204-207,　2005
42)川本絵理ら:一般病院への訪問相談によるコンサルテーション・リエゾン精神医療の試み，神奈川県精神医学会誌 55 号,P45-51,2005
43)穴田幸一ら:精神障害者が地域で生活を継続するために　病棟看護者における 5 年間の訪問看護実態調査,地域医療第 44 回特集,P422-425,2005
44)松下年子ら:精神科急性期治療病棟における入院日数および看護ケア量を規定する因子，臨床精神医学 34 巻 8 号,P1067-1072,2005